

# 令和5年度 園評価・関係者評価書

園名	加西市立北条ならの実こども園
----	----------------

## 1. 教育目標

『健やかな体・豊かな心』 ・元気な子 ・やさしい子 ・素直な子 ・ねばりづよい子
--

## 2. 本年度の重点目標

『心 動かして いきいきと遊ぶ子』 ～ 自ら感じ 関わり 表現できる援助を探る ～
--

## 3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	評価	自己評価・改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実践的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施  ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	A	・園内研修等で保育や環境を参観し合う機会をもったり、講師の指導助言を受けたりして指導力向上に努めた。 ・保育の連続性を大切にし、立案だけに終わらないような指導計画を作成する。 ・行事・環境・支援等の部会を充実させ、職員会議で共通理解できるよう報告を徹底していく。 ・互いに学び育ち合い、支え合える職員関係を築いていく。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分に関わって展開する生活の工夫 ○子どもの主体性を大切にした指導 ○子ども一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫	A	・子ども達が興味関心をもって関わろうとする環境を工夫し設定した。 ・年齢での育ちに重点を置いて取り組みながら、異年齢交流ができるように、保育内容、環境等を職員間で話し合い、共通理解を図り、工夫しながら行うようにした。 ・日々の振り返りの時間を確保し、重点目標により近づけるよう取り組んでいく。
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○預かり保育、延長保育の実施	B	・「どんぐりクラブ」は、子育て相談機関としての役割を果たしながら、保護者同士が繋がる場としても継続実施していく。 ・こども園ウイークではお知らせするタイミングが遅く、知らなかったという保護者もいたので、周知に努めたい。 ・保護者と話し合う機会をつくり、悩みや要望を気軽に話せる雰囲気や仕組みづくりをし、家庭との連携を適切に行うようにする。
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	A	・全職員が常に危機管理意識をもち迅速に適切に対応できるように、今後も計画的に研修や訓練を実施し、安全管理能力の向上に努める。 ・園舎や遊具が安全安心に使用できるように、安全点検は毎回違う職員が行い、危機管理に努めた。 ・早朝や預かり保育時間にも訓練を実施し、状況に応じて判断し、避難できるように全職員で共通理解を図る。 ・専門職員による交通安全教室、避難訓練を実施し、子ども自身が意識出来るようにしていく。
道 徳 ・ 人 権 教 育	○子どもの体験や経験を通じた、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さに触れる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気付きを育む環境の工夫	B	・気になる園児は、職員間の連携、共通理解のもと、家庭環境や保護者の思いにも配慮した細やかな対応を心掛ける。 ・職員会で支援児の日々の様子、支援の方向性等について報告、検討し、全職員の共通理解のもと、一貫した支援が行えるよう努める。 ・特性に対する対応の仕方、行事への参加の仕方等、十分話し合い保護者の気持ちにも寄り添ったサポートを心掛ける。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	A	・職員の迷いや悩みを共有しながら、有効な手立ての情報交換をして、支援部会の充実を目指す。 ・スムーズに進学や進級ができるように、見通しをもって学年を超えての支援の在り方を考えていく。
家 庭 ・ 地 域 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○こども園・小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流	A	・ニュースや便りは「伝わりやすい」「分かりやすい」を意識して作成する。 ・地域の伝統行事が遊びになり、自分たちが住む街への愛着につながる経験ができた。 ・『まちづくり北条』と『小谷城跡保存会』の方々のお力をお借りして、今後も恒例行事として城山登りを実施したい。

## 4. 自己評価方法の適切さについての園関係者評価

・保護者のアンケートの結果から、ほとんどの保護者が満足されているので、評価は妥当だと思われる。 ・職員が一生懸命業務を行っている。完璧にできない日があってもいいので、保育を振り返り反省することが保育の質の向上や子どもの育ちに繋がって行くと思う。
---

## 5. 評価の観点ごとの関係者評価

学校園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・早朝、預かり保育を利用する園児が多く、その保育に時間を取られることが多い中での研修時間の確保は大変なことだと思うが、園内研修や外部講師を招いての研修等は、続けてほしい。 ・立案だけの計画にならないような指導計画を作成し実施してほしい。
・学級だよりから、子どもたちの笑顔や成長ぶりを感ずることができる。子ども達の生活や遊びの様子が文章だけでなく、写真がカラーだったので、分かりやすかった。 ・運動会や発表会を見せてもらったが、良い経験を積んでいると感じた。子ども達が伸び伸びと活動し、友達同士で協力し合う姿もたくさん見られた。
・先生方のご苦労が目に見える。 ・園の行事等は、保護者の意見を聞きながら、よりよい開催となるようにしてほしい。お知らせは遅くならないようにしてほしい。 ・『どんぐりクラブ』で保護者同士が繋がる場所となるように、継続実施してほしい。 ・預かりや早朝保育の園児が多すぎて、職員の負担になっているようだが、職員の健康管理を怠らないよう十分気を付けてほしい。
・安全、安心な園であることが大切。引き続き、訓練を積んでほしい。 ・安全管理は、全職員で行い回数も積んでほしい。意外なところでヒヤリハットがあるかもしれないので、臨機応変な対応をお願いしたい。
・花壇には花が植えられていたり、畑にも季節の野菜が栽培されていたりして、環境整備はよくされている。 ・野菜栽培をし、世話をすることはもちろん大切だが、下の年齢の子が、世話をしている年上児の姿を見ることもよい環境である。
・すでにされていると思うが、特別な配慮が必要な子どもには、個別の指導計画を保護者と共に作成、共有し、達成評価をすることが大事である。 ・支援児が困っている時の、職員やクラスの子どもの関りが丁寧だと感じた。これからも丁寧に関わってほしい。
・園からの便りは、工夫しながら発信を続けてほしい。 ・降園時の担任からの一言は有効的であると思う反面、待ち時間も長くなるので、できるだけ短くし、何か特別なことがある場合は、別の時間をつくるようにしてほしい。